

## 学習支援の原理

本庄陽子

(青山学院大学コミュニティ人間科学部)

### 1. 「学習支援の原理」ってなに？

生涯学習支援のポイント整理

### 2. 生涯学習と生涯学習支援

ここでは社会教育領域で行われている生涯学習について考える

学校教育：卒業までの時間制限

成績評価

「失敗」

「成長」

社会教育：学校入学の前も、卒業後も、いつまでも

失敗や成長は「途中経過」

学習成果

家庭教育

私的な教育の領域

生まれて初めて属する「家族」集団における教育

母語、マナー、倫理観、基本的な生活習慣等の体得

「家庭教育支援」「子育て支援」

### 3. 社会教育の特徴

自発性の尊重

ノルマ、ゴール、ルールの緩やかな存在

緩やかな計画

地域のニーズや予算の範囲内で実施

参加や体験の重視

→バラつきや格差につながる可能性もある

#### 4. 学習者としてのおとな（成人）の理解

\*子どもとおとな（成人）の違い

##### 子ども

学校での学びが中心

➡将来のための準備教育の側面重視

##### おとな（成人）

子どもと比して多様な存在

職業人や家庭人としての役割を担う存在

豊富な経験を有するが、必ずしも学び上手とは限らない存在

➡身近な課題解決のための学び

趣味や生き甲斐づくりのための学びへのニーズが高い

\*\*成人学習者理解のために

— フール（Houle, C.O.）による分類

「学習者の3タイプ」

目標志向型 goal-oriented

活動志向型 activity-oriented

学習志向型 learning-oriented

#### 5. 指導者・支援者の役割

指導者・支援者の存在

学校教員との異同

「求めに応じる」原則 →ニーズの把握

リクエストに応えるだけでは不十分

カリキュラムの不在＝自由度の高い学び

→体系的な学びに弱点あり

「学びたいことを学ぶ」ことの是非  
やりたくないことはやらなくていいのか？

もちろん、強制はできないが

#### 6. 「個人の要望」と「社会の要請」

学習を支援することの意味

個人のニーズを満たすこと と 社会全体の向上を目指すこと の両立

→ 「学んでもらいたいこと」に気づいてもらえる工夫が腕の見せどころ

ご質問などがあればメールください

(..)φ

本庄 連絡先

青山学院大学コミュニティ人間科学部

e-mail yk\_hnj@ccs.aoyama.ac.jp

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 学習者理解とカウンセリングマインド	講師：岩崎久美子
	期日：2024年2月5日（月）

はじめに：フォーマル教育、ノンフォーマル教育、インフォーマル教育（学習）の諸相

### 1. 継続的学習を求める社会的背景

- (1) 日本の生涯教育の特徴
- (2) 雇用確保・維持と継続教育
- (3) 個人の自己啓発とキャリア形成

### 2. 成人学習者の特徴

- (1) 成人学習者の属性
- (2) 成人学習者の動機
- (3) 学習の阻害要因
- (4) 成人の学習実態調査の例

### 3. 成人学習の特質

- (1) 子どもと成人の学習の違い
- (2) 成人学習者の自己決定性の段階
- (3) 人生の転機と学習経験

### 4. 成人学習者の特性と支援

- (1) 成人学習者に対する配慮
- (2) 心理的タイプと学習との関係
- (3) 学習動機ごとの学習講座
- (4) 講座の持ち方
- (5) 教育方法一覧

### 5. 学習相談

- (1) 学習相談とは
- (2) 相談支援の特定
- (3) 学習相談員に求められる資質・能力
- (4) 学習支援者の役割
- (5) 学習契約

おわりに：（まとめ）

---

〔参考文献〕

岩崎久美子『成人の発達と学習』放送大学教育振興会 2019年

## 講義レジュメ

内容・テーマ： I. 生涯発達から見た学習者の特性 II. 成人期・高齢期の教育理論	講師：加藤かおり（国立教育政策研究所） 期日：令和6年2月5日（月）
--	---------------------------------------

## はじめに

## ○本講義全体の学習目標：

より良い学習支援を行うために、成人学習（者）の特性を、

- 1) 成人期に関わる生涯発達論等の観点から
  - 2) 成人の学習・教授に関わる成人教育理論の研究成果の観点から、理解する。
- 最終的に、これらの特性/特徴を考慮した学習支援のあり方や可能性を考える。

## ○講義全体の構成

## I 「成人期」についての理解：

1. 生涯発達の理論や、発達段階・課題の考え方から見た特徴
2. 個人の「ライフイベント」の重要性から見た特徴

## II 「成人の学習（者）」についての理解：

1. 「成人教育学（アンドラゴジー）の考え方から見た特性
2. 特性を踏まえた学習支援

## III 全体の振り返り

## ○レジュメの使い方

- ・このレジュメには、I、1、1-1（枝番つき、これがない項目もある）、黒丸の順で、情報が階層化されています。ノートを取る際には、この番号ごとに区切っておくと、後で見直したときに、知識を「点」ではなく「構造化」するのに役立ちます。
- ・【 】はテキスト内の概ね該当するページ数
- ・黒丸「・」は、各項目内容の理解を促すための「問い」です。

## ○講義の進め方

- ・基本的にこのレジュメの順番に沿って進めていきます。途中確認の課題があります。
- ・パワーポイントのスライドを使用しますが、情報は基本的にテキストに載っています。

## I. 成人期の理解：生涯発達から見た学習者の特性

## 1. 「生涯発達」の考えからみた成人期の特徴

### 1-1 「生涯発達」とは【p15】

- ・そもそも発達とは？
- ・成長との違いは？
- ・「生涯にわたる」発達という考え方はいつから？  
なぜ、何を背景に出てきた？昔にもあった？

### 1-2 「発達段階・発達課題」という考え方【p16】

- ・「発達段階」とは？
- ・どのような段階がある？
- ・「発達課題」とは？  
例) ハヴィガーストの発達段階【p16-17】
- ・「発達課題」の問題点とは？

## 2. 「ライフイベント」「ライフコース」の重要性からみた成人期の特徴

### 2-1 成人発達論の発展による「生涯発達」の捉え方の変化【p18】

- ・レビンソンの「成人発達論」とは？
- ・成人発達論の研究からどのようなことが明らかになったか？

### 2-2 「ライフイベント」とは【p18】

- ・ライフイベントにはどのような出来事があるか？
- ・その特徴は？
- ・ライフイベントはどのような意味で重要なのか？
- ・それに関わる学習の特徴とは？
- ・参考：「ライフステージ」とは？

### 2-3 「ライフサイクル」から「ライフコース」の考え方へ【p18】

- ・ライフサイクル、ライフコースとは何か？その違いは？
- ・なぜ、ライフコースの考え方が重要になってきたのか？

## I のまとめ（振り返り）

- ・「生涯発達」という考え方は、成人の学習を支援する際に、なぜ重要なのか。
  - ・この考え方から、学習支援者として、支援の際に、どういうことに配慮する必要があるか。
  - ・どのような支援の場面で考慮する必要があるそうか。
-

## Ⅱ. 成人の学習（者）の理解：成人期・高齢期の教育理論

### 1. 「成人教育学（アンドラゴジー）」における成人学習者の特性

#### 1-1 教育と学習

- ・「教育」と「学習」の違いは？

#### 1-2 成人の学習の特性【p19-20】

- ・学習の出発点は？
- ・学習の興味関心の特徴は？
- ・成人前の学習者との違いは？
- ・成人学習者は、いかにして学ぶ（理解する）のか？
- ・高齢期の特性

(p19 のノールズの成人学習者の特徴は後述のアンドラゴジーのところで説明)

#### 1-3 アンドラゴジーとは【p21-25】

- ・アンドラゴジー以前はどうだった？（ペダゴジーとの違い）
- ・なぜ変化は起きた？
- ・その概念（考え方）は、どのような背景から生成されたのか？
- ・アンドラゴジーの確立は、どのような研究成果の蓄積の上に成されたか？

#### 1-4 アンドラゴジーの基本にある成人学習者の特性についての主な仮説

仮説の具体的な内容 1) ~ 6)

- ・ノールズが提唱する「仮説」には、どのようなものがあるか？
- ・その仮説に対応する方策や留意事項とは？

参考：高齢期の「ジェロゴジー」の考え方とは

### 2. 特性を踏まえた学習支援【p25-27】

- ・アンドラゴジーで提唱された成人学習（者）の特性を考慮した学習支援とは？
- ・その他、成人学習者の特性を踏まえた支援とは？

### Ⅱのまとめ（振り返り）

- ・それまでのペダゴジーとは違う教授法が必要と考えられるようになった成人学習者の特性には、どのようなものがあるか。
- ・そうした特性から、成人対象の教授法及び学習の支援において、どのようなことに配慮すべきと考えられるか。

### Ⅲ 全体振り返り（ⅠとⅡを総合して全体を振り返ります）

#### 振り返りの観点

- ・生涯発達の考え方（成人期の発達の見直し）やアンドラゴジー的な成人学習者の捉え方が、それまでの教育の考え方をどのように転換させたか。
- ・そうした考え方に照らしてみても、現在の日本の生涯学習・社会教育の現状に必要なことには、どのようなことが考えられるか。（広く教育一般でも）
- ・その他、気づいたことなど

---

#### 〔参考文献〕

- ・テキスト『生涯学習支援論ハンドブック』15 ページから 27 ページ
- ・「生涯学習研究 e 事典」日本生涯教育学会編・生涯発達と生涯学習（加藤千佐子）  
<http://ejiten.javea.or.jp/content5321.html>
- ・M. ノールズ著、堀薫夫・三輪健二訳、『成人教育の現代的実践 ペダゴジーからアンドラゴジーへ』、鳳書房、2002 年。

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 特別な支援を要する人々の学習	講師： 津田英二
	期日： 2月5日

1. 特別な支援を要する人々とは誰  
キーワード：特別支援教育、特別な教育的ニーズ、  
特別な支援を必要とするさまざまな要因  
障害の概念
2. インクルーシブな生涯学習の国際的動向  
キーワード：「誰一人取り残さない」、障害者権利条約、インクルージョン、  
合理的配慮、障害者差別解消法
3. 取り残されてきた人たちの学び  
キーワード：学ぶことと生きること、自由時間の充実
4. 具体的な施策の流れと事例  
キーワード：障害者の生涯学習推進政策、障害者青年学級  
セルフ・アドボカシー

---

### 〔参考文献〕

- 津田英二『生涯学習のインクルージョン』明石書店、2023年4月、全頁  
津田英二『障害のある成人の学習支援論』学文社、2006年12月、全243頁  
津田英二『物語としての発達／文化を介した教育』生活書院、2012年10月、全301頁  
鈴木眞理・津田英二編『生涯学習の支援論』（シリーズ生涯学習社会における社会教育第5巻）学文社、2003年4月、全245頁

令和6(2024)年2月6日(火)

## 講義レジュメ

内容・テーマ：生涯学習支援論 学習プログラムの設計・運営	講師：栃木県総合教育センター 井上昌幸
---------------------------------	------------------------

- 1 諸計画と学習プログラムの関係
  - (1) 学習プログラムとは
  - (2) 諸計画と学習プログラムの関係
- 2 学習プログラムの意義と目的
  - (1) 学習プログラムの意義
  - (2) 学習プログラムの目的
- 3 学習プログラムを構成する要素
  - (1) 全体のプログラム
  - (2) 個別のプログラム
- 4 プログラム設計における留意点等
  - (1) ストーリー性をもたせる
  - (2) 多様な学習方法を用いる
  - (3) 地域の教育資源を活用する
  - (4) 地域課題を取り上げる
  - (5) 地域活動に発展させる工夫

---

### 〔参考文献〕

清國祐二執筆・編集代表, 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「生涯学習支援論」ぎょうせい, 2020年

## 学習支援の方法・形態

青山 鉄兵  
(文教大学人間科学部)

### ◇はじめに

### ◇ギターを始めるなら・・・

- ・ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
- ・ 違う条件も考えてみる
  - ギターじゃなかったら
  - 大学生じゃなかったら
  - 東京（日本）じゃなかったら
  - 令和じゃなかったら
  - 本人じゃなかったら
  - 未経験じゃなかったら
- ・ そもそも、学習の方法や形態にどんな意味があるのか



(スグキク:827-556)

### ◇社会教育における「学習」の多様性

- ・ 社会教育の特徴としての多様性
- ・ 教育の「フォーマルさ」からみた社会教育の特徴
  - ア.学習者 イ.学習時間 ウ.カリキュラム エ.指導者 オ.学習への社会的意味付け（評価）
  - 学習を幅広く捉えておくことの重要性
  - フォーマルな教育ではないからこそ生じる価値
- ・ 社会教育において望ましいとされてきた学習の形
  - ①学習者の自発性の尊重 ②学習者同士の相互的な学習の重視 ③学習以外の領域との関わり
- ・ 多様な学習の方法・形態をどう組み合わせるか（学習者だったら、支援者だったら）

## ◇学習方法・形態の類型

### ・3つの類型：個人学習・集会学習・集団学習

#### - 3つの類型ごとの主な学習場面

個人学習 読書 通信教育 放送利用学習 図書館・博物館などでの学習

集会学習 (集会学習) 講演会 大学の公開講座 音楽会 映画会

(集団学習) 学級・講座 グループ・サークル

#### - 活動の形態やメディア

活動形態	具体的な活動	学習メディア
聞く	講義・講演 ラジオ・CDの聞き取り	音声
見る	見学や観察 テレビや映画の鑑賞	映像・実物
読む	読書 新聞・雑誌等による知識の獲得	活字
話し合う	討論や討議 カウンセリング	人
表現する	作文 演奏・劇の発表 美術・工芸等の創作	体験
実践する	実験・実習 ボランティア活動 参加型学習	体験

#### - 複数の方法・形態の組み合わせ

学級・講座

大人数で行う討議法 (シンポジウム、パネルディスカッション・・・)

### ・伝統的な集団学習：学級・講座、グループ・サークル

#### - 社会教育における小集団学習の伝統

#### - 積極的な理由と消極的な理由

#### - 集団学習の強みと弱み

(集団学習のメリット)

- ・仲間意識の醸成
- ・学習意欲の継続
- ・多角的・合理的思考
- ・社会性・個性の伸長
- ・態度や行動の変化への結びつきやすさ

(集団学習のデメリット)

- ・体系的・効率的な学習はできない
- ・参加者の知識や経験による制限
- ・討議が馴染まない学習課題
- ・人数による効果の違い
- ・雰囲気や人間関係の影響

#### - グループの活動をどう支援するか (直接的・間接的)

#### - 指導者・支援者に求められる専門性

### ・学習の個別化・個人化の流れ

#### - 集まって行う学習活動が当たり前でなくなった

#### - 個人学習が注目された背景

- 1) 学習メディアの発展
- 2) 学習内容の高度化
- 3) 学習要求の多様化
- 4) ライフスタイルの変化による集会学習の難しさ

#### - SDLになりやすい一方で、継続しづらさや格差も生じやすい

#### - 個人学習を支援するための仕組み

## ◇新しい学習方法の展開

- ・新しい集合学習としてのワークショップ（参加・体験型学習）
  - キーワードは「参加」「体験」「グループ」
  - 背景にあるのは、一方的な知識伝達による学習への反省
    - [伝統的な学習]                      [参加・体験型の学習]
    - 一方的な教授                      →      相互的な学習（「参加」的要素）
    - 知識伝達の優先                      →      体験を通じた学習（「体験」的要素）
  - 様々な分野での活用：「正解のない学び」「地域づくり」「自己表現」など
  - ワorkshopの支援者（ファシリテーター）の役割
    - “facilitate”とは
    - さまざまな手法の普及
    - ワorkshop以外の分野への普及
- ・青少年の体験活動への注目
  - 体験活動への社会的な注目
  - 「自然にできること」から「わざわざさせること」へ
  - 「体験」を体験させることの難しさ
- ・ICTを活用した学習の広がり
  - 個人学習のためのメディアから、人を人を繋ぐメディアへ
  - SDLのしやすさとしにくさ
  - 対面すること・体験することの意味
  - デジタルディバイドへの対応
  - ポスト・コロナのオンライン学習のこれから

## ◇改めて、学習の方法を考える意味

- ・目的に応じた学習方法の選択という観点
- ・社会教育における望ましい学び方という観点
- ・学習へのアクセシビリティという観点

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 学習プログラム編成の視点	講師： 青木 康太郎
	期日： 令和6年2月6日

## 講義のねらい

学習プログラムの編成とは何かについて学び、学習プログラムを編成する際に大切になる視点について理解を深めることで、今後の学習プログラムの開発に役立ててもらおう。

## 講義の主な内容

1. 学習プログラムの編成
  - (1) 学習プログラムとは
  - (2) 学習プログラムの編成とは
  - (3) 学習プログラムの目的
2. 学習プログラム編成の視点
  - (1) 準備活動
  - (2) 対象者の明確化
  - (3) 学習者にとっての到達目標の明確化
  - (4) 学習内容を精選と構造化
  - (5) 多様な学習方法の活用
  - (6) 計画段階での学習者や住民の参加
  - (7) 関係者間の協力体制の構築
  - (8) 地域の学習資源とネットワークの活用
  - (9) 学習評価と学習支援評価
  - (10) 影響を及ぼす要因への配慮
3. 学習プログラム編成者に求められること

## 〔参考文献〕

- ・金藤ふゆ子(2020)「学習プログラム編成の視点」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(清國祐二編集代表)『生涯学習支援論』ぎょうせい, pp. 64-74.
- ・白木賢信(2020)「学習プログラムの編成」浅井経子・伊藤康志・白木賢信・原義彦編著『生涯学習支援論-理論と実践-』理想社, pp. 93-105.
- ・山本和人(2009)「学習プログラム編成上の基本的視点とは何か-社会教育と学校教育における学習の基本的な相違点とは-」日本青年館『社会教育』(2009年6月号), pp. 6-10.
- ・佐藤晴雄(2007)『生涯学習概論』学陽書房, pp. 111-125.
- ・岩手県立生涯学習推進センター(2001)「生涯学習ハンドブック VOL3 学習プログラムの作り方」

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 市民ニーズを捉えた学習プログラム作成の ために	講師： 千葉市生涯学習センター 野哲也
	期日： 令和6年2月6日

### 内 容

- 1 千葉市生涯学習センターの紹介
- 2 市民ニーズの捉え方
- 3 現代的課題学習と市民ニーズ
- 4 プログラム編成の視点から考える（事例から）
- 5 オンライン事業への取組みについて

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 学習支援方法としての参加型学習	講師： 志々田まなみ
	期日： 2月7日（水） 14:00 ～ 17:15

### 1. 参加型学習とは

- ① 価値としての参加
- ② 技法としての参加

### 2. 参加型学習のプロセス

- ① 導入
- ② 個人ワーク
- ③ グループワーク
- ④ 振り返り・共有化

---

#### [参考文献]

- 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「生涯学習支援論ハンドブック」  
経済協力開発機構『社会情動的スキル——学びに向かう力』2018、明石書店  
デイヴィット・コルブ他『最強の経験学習』2018、辰巳出版  
国立教育政策研究所『非認知的（社会情緒的）能力の発達と科学的検討手法についての研究に関する調査報告書  
（平成27年度プロジェクト研究報告書）』2017  
中原淳・金井壽宏『リフレクティブ・マネジャー～一流はつねに内省する～』2009、光文社  
田中治彦『国際協力と開発教育』2008、明石書房  
Jレイヴ・Eウェンガー『状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加』1993、産業図書

## 講義レジュメ

内容・テーマ： 参加型学習とファシリテーション	講師： 清國 祐二
----------------------------	-----------

講義期日： 令和6年2月8日

## I. 社会教育の方法と学習支援

社会教育における学習支援とは、学習者の諸条件に合わせたものでなくてはならない。そのために学習者の属性や学習歴、所有資格、社会活動歴等を事前に調査しておくことが望ましいのだが、通常それは困難である。そこで、参加型学習の手法を用いて学習者が相互に情報を共有できる場面を作ることで、その後の学習が円滑に進むよう援助することなどを検討したい。

## II. 参加型学習と効果的な学習プログラムの立案

参加型学習を効果的に利用する理由の一つに、「意識変容」と「行動変容」をもたらすことにある。人が変容するには「自分の言葉で意思を表明する」ことが必要であり、そのことが「周囲から受け入れられる」と変わる条件が整う。そのような環境を作る役割の人が鍵を握っており、それがファシリテーターであることが望ましいのである。その環境の中で行われる学習は、学習者の協働的な姿勢につながり、自身のみならず仲間を巻き込んだ行動へとつながる可能性を持つ。

## III. 参加型学習の特性を手法から導き出す。

参加型学習の代表的な手法に「ラベルワーク」と「ランキング」がある。これら2つの手法を題材にしながら、その効果について考える。ラベルワークは、参加者から幅広いアイデアを集め、分類、類型化、構造化する手法であり、最も汎用性の高い手法である。ここでは論理的思考が不得手な学習者であっても、そのコツがグループワークによってつかめる方法について解説する。ランキングは、集団でのコンセンサスを取り付ける手法であるが、これに習熟すると「議論を拡散させない」、「判断の基準設定の仕方がわかる」、「感情的対立を避ける」などの技法が身に付く。

## IV. 参加型学習とファシリテーション

学習支援者について検討しつつ、その中で中核的な役割を担う「学習環境を整える役割（＝社会教育主事・社会教育士）」について解説する。ここではファシリテーターを中心にその周辺に位置するコーディネーターやプロデューサー、カウンセラー、プランナー等の機能と関連づける。それらの言葉の定義は感覚的で曖昧なところも含むのだが、だからこそ手垢にまみれていない新たな議論を巻き起こせる。学習支援については、もっと関係者が議論を深めるべき領域であり、その機能を明らかにすることで多様な役割への関心が高まっていく。

## V. おわりに

社会教育は成人教育と青少年の学校外教育を軸に動いてきた。その内容について、趣味・教養・スポーツ・レクリエーションのような個人学習が中心ではないかという指摘もあったが、地域の抱える課題を解決するために社会教育の学びや関係性が役立っていたことも事実である。そこでは参加型学習とは言わずとも、当たり前のようにそのような学びのスタイルがあった。新しくて古い・古くて新しい参加型学習について俯瞰してまとめにかえたい。

---

### 〔参考文献〕

清國祐二編集代表・社会教育実践研究センター『生涯学習支援論』ぎょうせい、2020年  
社会教育実践研究センター『参加体験型学習ハンドブック』2009年